

学校名	西堀小学校
実施日	令和2年1月23日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	効率的に職務を遂行し、時間外労働時間を全職員45時間以内にする。	B	中間「2. 78」→本「3. 09」 ・90時間以上の時間外労働は1人もいないが、60時間以上の時間外労働人数は月平均3人を超える。教職員のコメントには持ち帰り残業があることも記載されていた。全体の仕事量が増えている中で、どのように時間外労働を減らしていくかは引き続き大きな課題である。		
2	分かる授業を推進して、学期末に実施する振り返りテストの正答率を1年は95%以上2年～6年は80%以上とする	B	中間「2. 91」→本「3. 00」 ・1月に実施した学校独自の振り返りテストでは、12クラス中5クラスが目標達成できた。各クラスの分析を行い、学力の定着・向上にむけて、主体的・対話的で深い学びとなるよう授業改善を図ること。朝学習、朝自習、補習授業の内容充実、家庭との連携を密にして家庭学習の協力を呼びかけるなど様々な方法で目標達成に向けて取り組んでいく。		
3	新しい学習指導の重点を踏まえた授業を全職員が1人3回以上公開する。	B	中間「2. 61」→本「3. 27」 ・評価数値が上がった理由として、年間3回以上の公開授業を実施することができているためである。しかし、積極的な授業公開はできているが、32年度本格実施となる新しい学習指導要領を見据えた授業づくりについては充分とは言えず、今後さらに実践を積み重ねる必要がある。研修を積み重ね、指導力の向上に励んでいく。		

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	中間「3. 04」→本「3. 30」 ・若い教員や、教職経験の少ない教員が多いが、校務分掌の予定・計画を確認したり、教科部会を月に1回開いたりするなど、昨年度よりさらに整備が進んでいる。		
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	中間「3. 04」→本「3. 35」 ・「分かる授業の実践」「保護者や地域から信頼される学校」などの経営方針の具現化に向けて、各種学校評価の結果を活かした学校経営を行っている。		
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう。危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	中間「3. 00」→本「3. 17」 ・各マニュアルの見直しを行い、迅速に対応できる体制を整えているが、西門前の通路は公道になっているため不審者が入りやすい環境である。 ・3学期に警察の方を講師として、不審者侵入を想定した避難訓練を実施する。万が一に備え		

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
-----	------	------	-------------	---------	----------------

7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	中間「3. 13」→本「3. 25」 ・英会話講師と協力して授業を実施している。 ・今年度は高学年で、新学習指導要領の先行実施のため英語が15時間増となり、その時間は担任が授業を進めている。 ・保護者にとっては学習内容がイメージしにくい		
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	中間「3. 13」→本「3. 25」 ・英会話講師と協力して授業を実施している。 ・今年度は高学年で、新学習指導要領の先行実施のため英語が15時間増となり、その時間は担任が授業を進めている。 ・保護者にとっては学習内容がイメージしにくい		
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指	B	中間「3. 13」→本「3. 25」 ・英会話講師と協力して授業を実施している。 ・今年度は高学年で、新学習指導要領の先行実施のため英語が15時間増となり、その時間は担任が授業を進めている。		
10	学校は、英語(英会話)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	中間「3. 13」→本「3. 25」 ・英会話講師と協力して授業を実施している。 ・今年度は高学年で、新学習指導要領の先行実施のため英語が15時間増となり、その時間は担任が授業を進めている。 ・保護者にとっては学習内容がイメージしにくい		

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導し、成果をあげている。	B	中間「2. 61」→本「2. 74」 ・学校として、あいさつや場に応じた言葉づかいについて指導しているが、学級によって実態が異なっている。今後も継続して指導が必要である。 ・「です・ます」はできる児童とそうでない児童の差が大きい。教職員の言葉遣いをお手本とする。		
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	中間「2. 96」→本「3. 04」 ・課題となるいじめはあったが、生徒指導部を中心とした学校の組織体制を生かして迅速に対応し、早期解決ができた。 ・校長から話のあった、人権週間の取り組みや道徳・特別活動等の普段の授業などあらゆる機会を捉えて、未然防止のため手を打っている。		
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	中間「2. 91」→本「3. 17」 ・1学期よりも言葉づかいに気を付けている教職員が増えた。 ・全職員のチームワークが良く、無言清掃や、時間を守る等、教師が手本になっている。		

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	中間「2. 96」→本「3. 30」 ・休み時間のチャレンジタイムは、児童のやる気やクラスのモチベーションアップにつながっている。 ・その他にも、なわとびカード、持久走カード等、体力向上につながる取り組みに積極的である。		
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	A	中間「3. 22」→本「3. 61」 ・栄養教諭が中心となり、各学年で「食」に関する授業実践、給食委員会での取組、ランチルーム給食・ランチタイムクイズの実施、1階廊下の給食掲示板の充実、冬休みの宿題として食事作りへの取組など健康教育を推進している。		

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	A	中間「3. 57」→本「3. 61」 ・2学期末に実施した保護者への「教育活動に関するアンケート」、学校公開日の参観者へのアンケート、学校応援団会議などを通して、学校への要望や意見を把握し、誠意ある対応に努めている。		
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	中間「3. 57」→本「3. 57」 ・ホームページの定期的な更新、学校だより・学年だより・学級だより・保健だより・給食だより・スクールメールなどで教育活動の様子を情報提供している。		
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	A	中間「3. 57」→本「3. 78」 ・学校応援団組織をより充実・整備するため、コーディネーターや各代表が参加する学校応援団会議を年4回実施し、情報交換・連携推進に向けての意見交換などを行っている。 ・今年度は本校の学校応援団の取組が高く評価されて「地域学校協働活動」推進に係る文部科学省より表彰を受けることとなった。今後		